

The Akita University Post

ミスコン奮闘記
AUPブログ、
好評配信中。



AUP
AKITA UNIV. PRESS

Monday, July 22, 2009 おかげさまで 第10号



発行 AUP 秋田大学報道局
主筆 三宅朝子
編集デスク 田代周祐



夜空の下で映画を見る会。
2nd, 4th Fri
@60th anniversary
memorial hall



夢をのせ、寒風山の空に舞う。

パラグライダーサークル

◆空を飛びたい！
2006年3月に現在中国人学生の情報工学専攻修士2年生の白柏さんによって立ち上げられた。
このサークルを成立させるために彼はエキスパートパイロットライセンスを取得し、メンバーへの練習のサポートができるよう足場を固めた。さらに寒風山パラグライダースクールの校長である小野寺久憲さんから適切な指導も仰いでいる。

デリケートなスポーツで、天候や風速、風向など気象状況の影響を強く受ける。快晴だからといって飛べるとは限らず、曇りの日が絶好のパラグライダー日和にもなり得るのだ。正確な気象判断と、充分な操作知識と練習によって、安全に楽しくサークル活動が行われている。

◆夢、大空へ！
命がけのサバイバルレース！
今年、世界一過酷なパラグライダーレースRed Bull X-Alps (レッドブルクロスアルプス) が7月19日から始まる。オーストリアのホルスタッ

トからヨーロッパを横断し、地中海モナコのビーチが終着点。総距離850kmの道のりを約2週間かけてパラグライダーを担いで山に登り飛び、野宿をしながら目的地を目指す。
21カ国、毎年30チームほど参加するが、ゴールまでたどり着くのはせいぜい4、5チーム。この厳しいレースに2007年日本人選手、扇澤郁さんがアジア人初参加で初完走。さらに第五位という前人未到の記録を成し遂げた。

◆世界の扇澤郁さん
この秋、秋田大学へ
ほとんどの人類が経験しない体験をし、日本のパラグライダーのアマチュア、プロと問わず、まさに勇気と希望を与えた扇澤郁さんを講師としてお呼びすることが今年10月末に予定されている。日本を飛び出し、世界の強豪たちと肩をならべた彼が見た世界は、いったいどんなものなのか、何を思ったのか、好奇心を駆り立てずにはいられない。
(鎌田 美咲)

一つ山を越えるだけで、見える景色は全く違う。(寒風山上空にて)

▼「なぜ山に登るのか」と問われ、「そこに山があるから」と答えた。エベレストの初登頂で知られるエドモンド・ヒラリー氏の、あまりに有名な言葉である。前人未到の偉業を成し遂げた彼の達成感とは、いかほどのものだったのだろうか。文字通り、想像することができない世界だろう▼私の経験した中で最大の達成感を味わったのは、きつとオーストラリアで過ごした1か月のファームステイでのことである。ある老夫婦と共に、動物の世話やマーケットで出店するための準備をして毎日を過ごした▼けれども私に襲いかかったのはやはり語学の壁である。拙い英語を使うけれども、もちろん彼らの日常会話にはついていけない。寂しさでふさぎ込む日々が続いた。当時の日記に私は「何のためにここに来たの?」と書きなぐっている▼しかしある時、私の約1年前にこの家で留学生生活を送っていた友人から一通のメールが届いた。「あなたがそこで学べるのは英語だけ?」と。なんでこんな簡単なことに気づかなかったのだろう。何かを乗り越えた瞬間だった▼この日から私とホストファミリーの距離は一気に縮まったように感じる。自分一人どころか一泊してくると言い張って出て行った方がいいもの、家が恋しくなり、一人帰ってきた時には、いつの頃のか分からない古い炊飯器で固いご飯を炊いて待っていてくれた。きつと私が日本へのホームシックになつたと勘違いしたのだ。でもなにより、そのホストマザーの心遣いがうれしかった▼たった1ヶ月ではあるけれどもこの経験が今の私を作っている。達成感是人それぞれだ。山の頂に登った景色は、きつと登りきったものにしか分からない。

AUP主催セミナー開催

秋来氏よこみ浦 講師 インターポート

経験をキャリアへ、経験を知識へ

AUPとしては初めての試みであるキャリアアップセミナーが6月24日に行われた。秋田大学生として、更には将来卒業生として胸を張って生きていくために、何を考え、何をすべきなのかを考える。

目先の就職だけでなく キャリア形成

セミナーを開催にあたって先立つ想い。それは例えるならば秋大生が大学生活で何を考え、どう行動したのか？を卒業の瞬間にイメージできるかである。更には経験として自己形成、これから自分はどうのよう社会とかわかり、貢献していくのかを考えられるようなものであればなお、良いのではないかと。だがチャン

スは大生活を送る今しかない、だからこそ、目先の就職対策だけでなく、真剣に未来の自分を思い描くための今を考える機会が必要なのだ。そのきっかけ作りがこのキャリアアップセミナーなのだ。

何がしたいのか、そのために何をすべきなのか
当日の開会のあいさつを主筆の三宅が行なった際に、「アンテナを張り巡らせるこ

と、そして何事にも『NO』というのではなくてやってみることを大切にしてほしい」という話があった。『NO』というのは、大学生活の中で起こるであろう良いこと悪いことに対して、必ず分別をつけるという意味でも必要なものではあるが、一方で自分の可能性が広がる機会を自ら消し去るものにもなりうるのだ。だからこそ、自分にとって『これは必要である』と思うことは多少困難でも、取り組むことのススメである。三宅自身の大学生活を振り返り、後輩が将来活躍していくために考えて欲しいこと

であった。

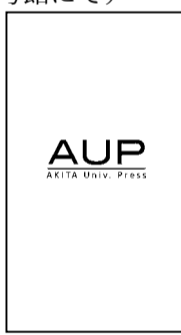
浦沢みよこ氏を招いて

その後講演をしていただいたのは、株式会社インターポート代表取締役を務められる浦沢みよこ氏。留学のお手伝いを主な仕事としている浦沢氏は、小さい頃にアルプスの少女ハイジに憧れ、海外へ行ってみたいという想いを抱き、新聞配達でお金を貯めて中学校2年生の時に初めて海外へ行く。現地を受けた刺激から、同じような境遇に置かれる人のためになるような仕事をしたい、そんな想いで現在の仕事をこなしている。



集まった学生に対し、自身のキャリアなどについて語った。(一般教育2号館にて)

その過程には、務めていた会社での経験、大学生と代表取締役を二足のわらじでこなした経験など、多くの経験が契機となっている。だからこそ、何がしたいのか、そして自分はどうのようのか、そして自分はどうのようのか、何をすべきなのかを明確にしていく必要性について話された。



(田代 周祐)

秋田と世界をつなぐ。

—NPO秋田キャンパスネット—

6月21日秋田市民交流プラザALVEにて「国際理解セミナー」が行われた。これは「秋田キャンパスネット(以下ACN)」による企画で、今回で今年度三回目を数える。今回のセミナーでは本学国際言語文化課程教授の宮本律子氏など県内の専門家を講師に招き、主にアフリカの現状理解、背景や今後の活動への助言等を交えながら行われた。

国際的な視点の育成

ACNは2004年に国際理解、またそれに基づいた地域貢献を目的に、本学と、国際教養大学の両学生を中心として組織されたNPO団体(非営利組織)である。アフリカについての活動は三年前から本格的に始まり、通常のセミナーに加え定期的な地域交流プログラム等を精力的に行ってきた。



アフリカに伝わる手話を宮本教授自ら実演。(拠点センターALVEにて)

きた。活動理念として「Think globally act locally」を掲げ、途上国としてのアフリカを考える事で、国際協力の意識を育むと共に「日本の中の、世界の中の秋田」について見つめようとしている。

より世界、地域との
つながりを

ACNは今年度より団体内の有志の学生による海外へのスタディーツアーを企画している。旅人としての目線をもって海外に接する事で、より現地に密着した意識の育成を目指す。第一弾の行き先としてはネパールが予定されている。

また今年11日には今年で3回目となる「秋田・アフリカフェスティバル・09」が秋田拠点センターALVE1階きらめき広場にて開催された。この催しにて使用されるエネルギーは、全て環境に無害な発電方法により賄われている。副代表である工学資源学部地球資源学科三年次の渡辺卓真さんは今後について、「自分達が率先して環境問題に取り組む事で、人々のエコ活動への抵抗を無くし『かっこいいECO』を推進したい。また活動全体を通して地域の人々にアフリカについてもっと知って貰いたい。私達の活動が何かのきっかけとなれば嬉しい」と意気込みを語っていた。

(茂木 健介)

今年も開催



秋大恒例 青春の 今日歩大会

「人類は2本足で立つことにより、その文化を創造したにもかかわらず、我々の足は自己の造ったモーターゼーションのため日に日に弱められている。この大会の真のねらいは、陸上動物の基本動作である「歩く」ということを見直すことで、健康の回復、増進への刺激の機会を作ることである。また、この機会に、秋大生

と一般市民との交流を深めようというのも主旨の一つである。『このような大会趣旨のもと、5月30日(土)の夜から31日(日)の朝にかけて、第44回今日歩大会が今年も開催された。参加者には、サークルや学科、友達同士で参加した秋大生の他に一般市民の姿が数多く見られた。3年間、この大会に参加

し続けている工学資源学部3年次の山地潤一さんは「1年次の時に、初めてこの大会に参加をしました。それから、自分自身との戦いだと思ひ、参加し続けています。限界を超えたいところに新しい世界があると信じているため、それが楽しみです。また、長く辛い道程を信じられる仲間とともに越えていくこの大会は、人

生にも通じているのではなにかと思ひます。」と語った。また、団体の部で今年初参加した工学資源学部1年次の山方駿さんは、「チームで参加できるということにモチベーションが上がりました。チームとして完歩することはできませんでしたが、自分が完歩したときには本当に嬉しくて、歩いて

40kmを夜通し歩くこの行事。長い距離と長い時間をかけて参加者一人一人に様々なドラマがあったことだろう。来年の参加者たちはどのようなドラマを見せられるのだろうか、非常に楽しんだ。

(川村 巴)

「好き」と「嫌い」で脳波は変わる!?

秋大の最先端技術、「事象関連電位」



頭に電極を取り付け、脳波を計る。(工学資源学部一号館にて)

人間がものを見たり聞いたりして何かを感じたときに極めて小さい電位が脳に発生する。「事象関連電位」と呼ばれるその脳波(生体信号)を数値的に取り出し、画質やその応用として食品などの評価に使えないだろうか、という研究をしている人がこの秋田大学にいる。今回はその研究の最前線を紹介していく。

被験者は学生
工学資源学部1号館の一室、見慣れない装置が並ぶその部屋で実験は行われていた。実験の方法はシンプルで、頭に電極をつけた被験者に様々な画像を見せ、その時に被験者がどのような評価をするか見るものがある。例えば、その食べ物「好きだ」、「嫌いだ」というような、人間の感情に

よって、脳波の大きさが違うというのだ。このとき被験者はその時見せられた画像を事前に与えられた方法で評価する。ここでの被験者は学生が務めていた。脳波の測定も学生が行っており、講師の手伝いをして間近で最先端の技術に触れている。(尚この実験の安全性については十分に注意されているとのことである。)

研究のいきさつ
この研究の責任者である、電気電子工学科の田中元志講師が脳波の測定を始めたのは1999年のことだ。その後2000年に事象関連電位について知り、現在も研究を続けている。そして今現在のところでは、被験者に画像を見せたときの脳波の大きさが異なるという

事実を発見したということまでである。
産学官連携事業
脳波を用いた食品の評価方法に関する研究は、文部科学省都市エリア産学官連携事業(秋田県中央エリア)の一環で行われており、学外の研究機関、企業と連携し学術的な研究を社会に役立てていこうという事業の一つである。この事業に携わっている機関は数多くあるが、その中でも本学は、秋田県総合食品研究所、秋田県立大学と共同研究している。そこで脳波を食品の評価に応用できないかというテーマは、数ある研究テーマのうちのひとつなのだ。

研究の展望

今後は、画像を見たときの視線の動きも一緒に測り、評価に及ぼす影響を見ること、また食品についても、実物を見せて評価する方法も確立していけたら良いという。そして将来的には脳波による評価法を確立し、測定装置を小型化していつでも手軽に心で思ったことの程度を数値的に測れるようにしたい、と田中講師は語ってくれた。まるで夢の世界のような話だが、秋大初の研究装置が生まれるのも、そう遠い未来ではないかもしれない。

(工藤 翔吾)

候補者大募集中。エントリーメ切 7/31(Fri)

■主旨	昨年に引き続き、秋田大学祭のメインイベントとして行い、秋田大学の学生より2009年度最も秋田大美人にふさわしい女性を決定しようというものである。
■参加資格	秋大生、秋大院生(女性に限る)
■賞	グランプリ「ミス秋大」(副賞 3泊4日韓国ツアー)、AUPにて巻頭表紙に載る権利 準グランプリ「準ミス秋大」(副賞 2万円分の賞品)
■応募方法	団体戦出場を基本的に原則とし、自薦・他薦は問わない。 (ただし他薦の場合、必ず本人の同意を得ること。)
■審査方法	応募用紙(パンコ前 AUP ラックにて配布)に記入後、事務局、または学生支援課に提出。
■審査員	応募者多数の場合、事務局によって抽選
■主催	本選(自己PR、etc)、審査員、一般、地域投票によりグランプリ、準ミスグランプリを決定 有識者5名
■共催	秋田大学祭実行委員会
■問い合わせ先	AUP 秋田大学報道局 ミス秋大事務局 AUP 秋田大学報道局主筆 三宅 朝子 (090-9630-9642)

ミス秋大は
一日にして
ならず。
今年も、開催。

AUP Photo Library.



僕らが秋大守るニャン。(南門) (報道班 三宅朝子)

AUP INFORMATION

平成21年度「秋田大学オープンキャンパス」

- 【開催日時】
8月8日(土) 10時～
【会場】
- 手形キャンパス(秋田市手形学園町1-1)
教育文化学部、工学資源学部
 - 本道キャンパス(秋田市本道1-1-1)
医学部医学科、医学部保健学科

入学者選抜方法
教育研究の概要及び卒業後の進路の説明施設
研究室見学を予定

24時間チャリティー・ウォーク&ラン'09

【開催日時】
8月29日(土) 昼12:00スタート
30日(日) 昼12:00ゴール

「事故や病気で心身に障害を持つ方に対し、健康である自分が少しでも何かのお役に立ちたい」

その思いを形にするため、
発起人共通の趣味であるマラソンを媒体とし、
秋大グラウンドを一周する毎に10円以上の寄付をする。

【募金】
集まったお金は、ABS24時間テレビへ全額寄付
【場所】
秋大グラウンド
雨天決行
申し込み不要。都合の良い時間に秋大グラウンドへ来て走る。
(歩く。)
【お問い合わせ】
実行委員会事務局
090-6452-1698

芳賀 洋介 さん

はが ようすけ /34歳。大町にあるstudio bar Yokke店主であり、仲小路ジャズフェスティバル実行委員長。2007年から日赤病院跡地にて「仲小路ジャズフェスティバル」を主催し、今年で3度目の開催となる。



こんなに素敵な30代が、ここにいる。
(聞き手、写真:三宅朝子)

「若い頃、イギリスに留学していたときに『ポルトベロ』という市場に毎週通っていたことがあった。本やガラクタなんか売ってるマーケットなんだけど、普段は閑散としている場所に、土曜日になると満員の客で溢れかえるのを

「若い頃、イギリスに留学していたときに『ポルトベロ』という市場に毎週通っていたことがあった。本やガラクタなんか売ってるマーケットなんだけど、普段は閑散としている場所に、土曜日になると満員の客で溢れかえるのを

秋田百聞 4

まずはスタートラインに

「秋田百聞」は、秋田に縁の深い人々にお話を伺い、秋大生や秋田について考えて頂く企画です。

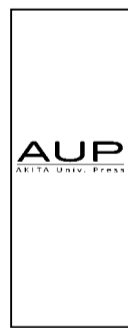
見て、驚いた。それを秋田でもできないかなって思ってた「青空マーケット」を始めたのがきっかけ。何百億かけなくたって、アイデア次第で人は呼べるんだってことを知ったからね。

でもずっとその中身をどうしたらいいかが分からなかった。そのときに小沼ようすけと出会って、今は世界で活躍している彼が「自分を育ててくれた秋田に恩返しをしたいんです」って言葉を聞いたと



もっと英語でしゃべらナイト!

6月3日に秋大の60周年記念ホールでNHK主催の「もっと英語でしゃべらナイト」が開催された。秋大生のみならず、噂を聞きつけた国際教養大学の生徒や近隣の高校生も参加していた。会場内は満席で立ち見客もちらほら見られるほどの大盛況振り。お笑い芸人のパッケンマッケンが進行役を務め、会場は終始笑い声



「この若い子は、夢や情熱なんでしょうね。俺が秋田で出会う学生たちで「おっ」って思う子はたいてい県外出身ってのが少し寂しいね。とりあえず、今の秋田を変えられるのは俺らの世代だと思って。必ずやってみせて秋田を変えていきたい」

「イベントの中心は、秋大生の英語科研究室の学生など数名による全編英語の寸劇も行われ、内容に対して二人がつっこむ場面もあった。イベント終了後、AUP秋田大学報道局の記者に対して、パッケンは「テレビでは視聴者の表情が見えないから、反応がわからない。このように目の前のお客さんが爆笑してくれているのを見るのはとても楽しい。」と話した。会場の誰もが笑顔になった充実の90分となった。(鎌田 美咲)



19-20.9.2009 nakakoji jazz festival 3rd final

Change our Akita for our smile

編集後記

今号でいよいよこの新聞も第10号となり、秋田大学報道局の設立で考えると、一周年を迎えることとなった。昨年十月から仲間入りした私さえ、感慨深いものがある。

前主筆市井から受け取った中で最大のものは、やはり彼が放ったデザイン性だろう。それが人々の関心を引き、今

なお支援してくださる方が後を絶たない所以だと思っ。

AUPは、きつとこれからも新聞の号数と共に年を取る。読んでくださり、応援してくださる読者の方がいる限り、どんなことがあっても我々は新聞を作り続けていきたい。(主筆)